

編集 後記

第63巻第3号には、4本の原著論文が掲載されています。偶然、どれもが、人々の保健医療に関する行動に関する研究です。人間行動に関する研究は、観察されるインプットとアウトカムの内ずれもが、主観的なものになり得るため、その「研究」は漠然とした記録にもなりがちです。こうした事象をいかに客観的に表現するか、統計学の方法を利用したり、臨床医学のデザインを応用したりして、漠然たるものを歴然とさせる努力がされてきました。主観的要素の評価指標の開発はその最たるもので、心理学や教育学の知見に基づき、ITがフル活用されて、目に見えない「能力」や「特性」を測定することに心血が注がれています。これだけ苦勞をして導き出した結果もまた、人間行動に影響を与える交絡因子が無限とも言えるほどに存在し、容易に因果の逆転も起こりうることから、結論ありき、言ったモン勝ちとなりがちでもあり、残念なことに学問の中でも、低評価され易い領域でしょう。しかしながら、人間の健康は、行動と密接に結びついています。疾患のメカニズムが解明され、その予防法、検査法、治療法が確立され、社会に普及したとしても、それを受け入れるのも人間、実践するのも人間、後世に伝えるのも人間です。タバコが健康に極めて有害と分かっている、禁煙補助薬が存在して、保険まで

次号予告 (第63巻・第4号)

原著

子どもの食行動・生活習慣・健康と家庭環境との関連：文部科学省スーパー食育スクール事業の結果から……………中堀伸枝，他
認知症の人の生活上の困難さについての認知症の人と家族介護者の認識の違い……………宮村季浩
公衆衛生活動報告
学校欠席者情報収集システムを活用した麻しんおよび風しん早期探知・早期対応……………渡邊美樹，他

適応しているのにやめられない人がいる、未だに酒豪自慢を世界に向けて発信する医療関係者がいる、面白いですね。You may take a horse to the water, but you cannot make him drink (馬を水辺に導くことはできるが馬に水を飲ませることはできない)。でも、この家の馬は水を飲まないけれど、どうしてあの家の馬は水を飲んでいるのだろうか…？ 病因・病理学と同じくらい高尚で奥が深い、これが人の行動を扱う公衆衛生学なのでしょう。

(松田智大)

休み時間の微生物学

第2版

北元 憲利・著 A5・223頁・本体2,200円 (税別) ISBN 978-4-06-155717-8

フルカラーでパワーアップ！ 微生物の写真も図版も、さらに見やすく・わかりやすくなった。新規図版も豊富にそろえ、微生物学を学ぶ全ての学生に学んでほしい1冊。抗生物質、微生物の歴史など新 Stage も登場。

新刊



▶ 主な内容

1. 微生物いろいろ
2. 感染症の世界
3. 微生物検査の技術
4. 微生物とその応用
5. 微生物・感染症各論
6. 最近の感染症の動向
7. 微生物の歴史

好きになる 微生物学

感染症の原因と予防法

オールカラー

渡辺 渡・著 A5・175頁・本体2,000円 (税別)

ISBN 978-4-06-154183-2

医療系学生を対象に、食中毒からインフルエンザ、デング熱、エボラ出血熱など、さまざまな感染症と微生物との関係を簡潔にまとめた入門書。カラーイラストとわかりやすい語り口で、スラスラ理解できる。確認問題付き。

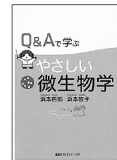


Q&A で学ぶ やさしい微生物学

浜本 哲郎 / 浜本 牧子・著

A5・206頁・本体2,000円 (税別)

ISBN 978-4-06-153444-5



絵でわかる感染症 with もやしもん

岩田 健太郎・著 石川 雅之・絵

A5・239頁・本体2,200円 (税別)

ISBN 978-4-06-154775-9

